
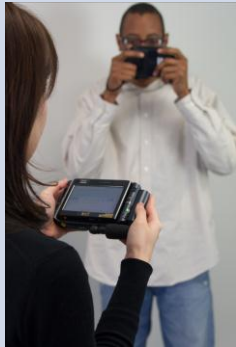
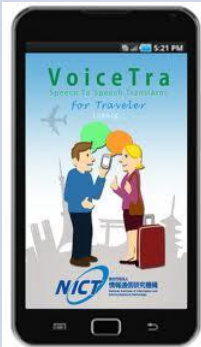



	プロジェクト開始前(H19年頃)	現在
	 	 
対応言語 (音声入出力)	3言語(日、英、中):語彙の制限等により、地域性のある固有名詞、会話文における単語数における制約あり	<ul style="list-style-type: none"> ・3言語(日、英、中):語彙の拡大による地域性のある固有名詞への対応、7語程度の会話文への対応等の性能向上 ・韓国語、インドネシア語、ベトナム語にも対応(合計6言語)
利用端末	専用端末(超小型パソコンと外付けマイクとスピーカで構成)	市販のスマートフォンで利用可能
処理方式	端末で全て処理(スタンドアロン型)	サーバーで処理(ネットワーク型)
機能・性能面に関する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア制限が厳しいので大語彙化が困難で利用範囲が狭い(音声翻訳語彙:5万語、対訳例文:20万文) ・使用発話履歴の収集が困難であり、事業化の際の性能改善に制約あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速・大容量のサーバを利用可能であり、大語彙化により民間におけるサービスが期待できる翻訳性能の実現(音声翻訳辞書:20万語、対訳例文:100万文:実証・検証実験の加速による成果の反映) ・使用発話履歴の収集が容易となり、事業者がツールにより辞書登録することが可能となり性能改善が容易 ・電話型で、使いやすく騒音に強いユーザインターフェース
成果展開に関する特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・H23.12に成田国際空港(株)が本成果に基づいたサービスを開始 ・ソフト開発キットの無料公開等により、民間におけるクライアントアプリの開発が容易(複数の開発が進行中) ・音声翻訳のデータフォーマット等に係る標準化案がITU-T^(注)勧告になり世界展開、多言語化が加速

(注) 国際電気通信連合(国際連合の専門機関の一つ)の電気通信標準化部門